

2016年(平成28年)3月10日(木曜日)



ロサンゼルスで震災行事を続ける

うのうら まさこ  
鵜浦 真紗子 さん 61

米ロサンゼルスで6日から11日まで、東日本震災の犠牲者追悼集会「Love to Nippon」など震災を考えるイベントを展開している。開催は5年連続で、「古里にいない分、古里を思う気持ちが強くなる」と語る。

災し、避難先の商店の屋上から津波にのまれる街を見て泣き叫んだ。28時間後に救出され、「九死に一生を得た自分には何かをする使命がある」と確信した。

か——。在留邦人や警察・消防などに賛同の輪が広がり、イベントが定着した。次の5年は「日米で防災意識を共有する時期」。太船渡市の消防署と、同市で救助活動を行ったロス消防局との合同訓練の実施を模索する。まず、今年はロスで消防隊員の顔合わせを実現させた。「小さな取り組みだけでも、少しずつ広げたい」(ロサンゼルス支局 田原徳容、写真も)

顔

実家は岩手県大船渡市。5年前の3月11日は、夫と暮らすロスから訪れた母の故郷・宮城県気仙沼市で被

る。震災は岩手県大船渡市。5年前の3月11日は、夫と暮らすロスから訪れた母の故郷・宮城県気仙沼市で被

震で建物数万棟が壊れ、50人以上が犠牲となった。それにもかかわらず、住民の多くは無防備に暮らす。「私の経験を通じて危機意識を高めてもらえない

ロスでは1994年のノースリッジ地震で建物数万棟が壊れ、50人以上が犠牲となった。それにもかかわらず、住民の多くは無防備に暮らす。「私の経験を通じて危機意識を高めてもらえない